

不倒の油画道

FROM THE 151st YEAR:

KANOKOGI TAKESHIRO RETROSPECTIVE

RETURN TO REALISM

生誕151年からの

カノコギタケシロウ

鹿子木孟郎

特別展

2025.9.27 sat.—12.14 sun.

〔前期〕9月27日(土)—11月3日(月・祝) 〔後期〕11月5日(水)—12月14日(日)

〔開館時間〕10時—17時 ●入館は16時30分まで

〔休館日〕月曜日、10月14日、11月4日、11月25日(10月13日、11月3日、11月24日は開館)

〔入館料〕一般1,200円(1,000円)、学生800円(700円)、18歳以下無料

●学生・18歳以下のかたは証明書をご呈示ください ●本展覧会の入場料でブロンズギャラリー「中国青銅器の時代」もご覧いただけます

●20名様以上は()の団体料金 ●障がい者手帳等ご呈示のかたはご本人および同伴者1名まで無料

〔主催〕公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞 〔特別協力〕府中市美術館

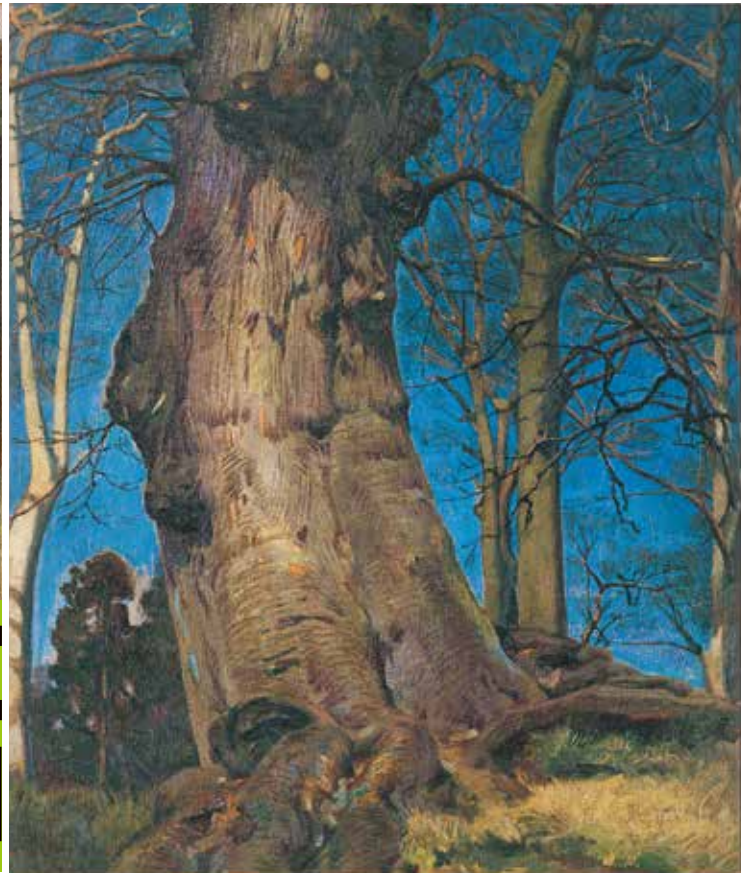
〔後援〕京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局

SEN-I-KOKU
MUSEUM
KAN

泉屋
博古館

《婦人像》(部分) 個人蔵

KANOKOGI
TAKESHIRO



左:《ノルマンディーの浜》1907年 泉屋博古館東京寄託 右:《木の幹》個人蔵

KANOKOGI TAKESHIRO

生誕151年からの
鹿子木孟郎

近代の日本洋画に本格的な「写実」表現をもたらした鹿子木孟郎(1874~1941)の生誕151年を契機として、その足跡をたどる特別展です。鹿子木は現在の岡山市に生まれ、はじめ天彩学舎や不同舎で洋画の基礎を学び、1900年に米国経由でフランスへ留学しました。1918年まで都合3度にわたって留学したパリではフランス・アカデミズムの巨匠ジャン=ポール・ローランスからフランス古典派絵画の写実の薫陶を受け、ルネ・メナールに接して象徴主義の表現を学びました。帰国後は、関西美術院や太平洋画会、文部省美術展覧会の中心的な画家として活躍し、日本洋画の発展に確かな足跡を残しました。本展は、10代の初期作品からローランスに学んだ渡欧作、帰国後の文展や太平洋画会、関西美術院や家塾での活動を紹介しつつ、日本洋画における写実の展開と継承について検証します。

写実絵画を
もういちど

師であるジャン=ポール・ローランスの大作



ジャン=ポール・ローランス《マルソー将軍の遺体の前のオーストリアの参謀たち》1877年 泉屋博古館東京 前期展示



上段右より(時計回り):《加茂の競馬》1913年 株式会社三井住友銀行蔵(泉屋博古館東京寄託) / 《ショールをまとう女》1906-07年 府中市美術館 / 《画家の妻》1921年 個人蔵 / 《自画像》 個人蔵

ラーニング・プログラム

予約制のイベントは当館webサイトにて要予約(9/11、10時受付開始)

1 記念講演会「鹿子木孟郎の人と芸術」
10月11日(土) 14時-15時30分
講師: 梶岡秀一氏(京都国立近代美術館学芸課長)

予約制

2 シンポジウム「鹿子木研究のこれから」
10月25日(土) 14時-17時

基調講演 児島薫氏(実践女子大学教授)

パネリスト 橋村直樹氏(岡山県立美術館学芸課長)

一柳由樹氏(神戸大学大学院人文科学研究科博士課程後期課程、神戸市立小磯記念美術館学芸員補助)

野地耕一郎(泉屋博古館東京館長)

川村悦子氏(画家) 予定

ゲスト 椎野晃史(泉屋博古館東京主任学芸員)

モデレーター 椎野晃史(泉屋博古館東京主任学芸員)

予約制

3 泉屋博古館×関西美術院「クロッキーに挑戦」

11月16日(日) 14時-15時30分

講師: 阪脇郁子氏(関西美術院理事長)

参加費: 2,000円

予約制

4 スライドトーク(予約不要/当日10時より整理券配布)

① 10月12日(日) 椎野晃史(泉屋博古館東京主任学芸員)

② 11月3日(月・祝) 野地耕一郎(泉屋博古館東京館長)

いずれも14時-15時



泉屋博古館

地下鉄 東西線「蹴上駅」から徒歩約20分
市バス 5、93、203、204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル
32系統「宮ノ前町」下車すぐ

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
TEL 075-771-6411
HP <https://sen-oku.or.jp/kyoto/>

休館日・開館時間および展示内容を変更する場合がございます。当館のホームページ、SNS等で最新の情報をご確認ください。